



# 改札に駅員がいなくなる!

## 十条駅南口無人化計画は撤回を



8月末に無人化されようとしている十条駅南口

現在は 写真左側の窓口に駅員がいますが、無人化されるとインターホンで北口の駅員と話すこととなります。

十条駅南口に駅係員がいなくなる!

この話は今年の3月にもありましたが、3月の時点では実施されませんでした。

十条には特別支援学校もあり、また障害者のためのスポーツセンターも、多くの方が利用しています。このた

め、南口窓口での係員の対応は、一日平均128件もあります。もし無人化が実施されると多くの方が影響をうけることとなります。

### 十条駅バリアフリーの現状

十条駅のバリアフリー対策は、北口には改札まで上がるエレベーター、

南口には改札からホームまでのスロープがあります。

しかし、電車がホームの間を通る構造となっていること、そしてホームをつなぐ高架橋にはエレベーターが設置されていないことから、車椅子利用者は、ホーム間の行き来をすることができません。このため、行き・帰りのいづれかは、必ず南口を使わざるを得ないこととなります。

### 国土交通省の担当者との交渉

私は、曾根都議・本田区議・ながい区議、障害者団体や駅利用者の皆様と共に、8日に国土交通省の担当者とこの問題についての話し合いを行いました。

「駅員にトイレの位置を聞くこともできない

くなった」(視覚障害者)という切実な現状など、無人化された駅が、障害者にとって、どれだけ使いにくくなったかという、実体験を通した実態が数多くあげられました。

北赤羽駅浮間口は、3月に無人化されました。無人化後は、インターホンで対応できない場面では、赤羽口にいる駅員が浮間口まで来ることになるのですが、駅員が来るまでに6〜7分待たされるのが日常化しているとの指摘もありました。

さらに問題なのは、このことについて、JRに苦情を申し出ても、話を聞くだけで、ほとんど問題にされないことです。ひとたび無人化が実施されると、利用者がいくら声を上げても、問題は解決できないこととなります。





私たちが普段何気なく使っている切符の自動販売機ですが・・・



車椅子の方にとっては、非常に見えにくく使いづらいものです。またボタンを押そうにも、自由に体を動かせない方もいらっしゃいます。

## 利用者の利便性を切り捨てる合理化は改めよ

私たちは、安全と、利用者、特に障害者や高齢者の利便性の確保のため、国土交通省の担当者に、無人化の実施を中止するよう求めました。これに対して担当者は、「民間企業であるJRに対しては国土交通省であっても指導をする権限がない」との回答。また、これまでに行われた改札無人化に伴って、どのような影響が出ているかについても、JRから報告はなされていないとのことでした。

今回の短時間の懇談でも、多くの問題点が明らかになりました。国土交通省の担当者には、無人化による利用者への影響の実態の把握を重ねて要望し、駅利用者への安全確保のため、国としても責任を果たすことを求めました。

JRは埼京線高架化事業でも地域住民への悪影響を考慮せず、「費用最優先」で事業を進めようとしています。この無人化事業でも、合理化「人員削減」により、JRの利益は増えるのでしようが、駅利用者にはメリットはありません。駅利用者・地域住民不在のJRの事業計画は改めさせるようがんばります。



国土交通省担当者との交渉 7月8日衆議院第2議員会館  
「JRから十条駅南口は8月末より無人化になると聞いている」と担当者